中野区教育委員会会議録

令和５年第７回臨時会

令和５年７月２５日

中野区教育委員会

令和５年第７回中野区教育委員会臨時会

○日時

令和５年７月２５日（火曜日）

開会　午後　　６時５５分

閉会　午後　　７時４６分

○場所

中野区役所５階　教育委員会室

○出席委員

教育委員会教育長　　入野　貴美子

教育委員会委員　　村杉　寛子

教育委員会委員　　平本　紋子

教育委員会委員　　伊藤　亜矢子

教育委員会委員　　岡本　淳之

○出席職員

教育委員会事務局次長　　石崎　公一

指導室長　　齊藤　光司

○書記

教育委員会係長　　香月　俊介

教育委員会係　　伊藤　芽依

○会議録署名委員

教育委員会教育長　　入野　貴美子

教育委員会委員　　伊藤　亜矢子

○傍聴者数

０人

○議事日程

１　協議事項

（１）令和６年度使用教科用図書の採択について（指導室）

○議事経過

午後６時 55 分開会

入野教育長

定足数に達しましたので、教育委員会第７回臨時会を開会いたします。

本日の会議録署名委員は、伊藤委員にお願いいたします。

本日の議事は、お手元に配付の議事日程のとおりでございます。

ここで、お諮りいたします。

本日の協議事項「令和６年度使用教科用図書の採択について」は、採択過程における審議の公正を確保するため、中野区立学校教科用図書の採択に関する規則第 10 条第１項の規定により、非公開の取扱いとなっておりますので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 14 条第７項ただし書きの規定に基づき、会議を非公開としたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

入野教育長

ご異議ございませんので、非公開とすることに決定いたしました。

（以下、非公開）

（令和５年第 26 回定例会における会議録の公開決定に基づき、以下非公開部分を公開）

＜協議事項＞

入野教育長

それでは、日程に入ります。

協議に入る前に、前回の臨時会から本日までに教育委員会及び教育委員宛てに要望書などが届いておりましたら、ご報告願います。

指導室長

本日までに、要望書は届いてはございません。

入野教育長

それでは、前回に引き続き「令和６年度使用教科用図書の採択について」の協議を行います。協議の進行につきましては、前回と同様の方法によりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、生活について協議を行います。

各委員から順にご意見を伺いたいと思います。

まず岡本委員、お願いいたします。

岡本委員

どの教科書も本当に楽しそうで、生活科が小学校６年間の基盤になるということがよくわかりました。保育園・幼稚園からの学びの接続ということを意識して、教科書を拝見いたしました。

まず、東京書籍の教科書なのですが、気づきを促す登場人物のせりふがあるのですけれども、例えばアサガオを育てるのに、「この場所のままでいいのかな」とか、「野菜の世話をしよう」のところでも、「みんなどうしているのかな」といった、あんまり誘導的でないような問いがあると感じました。このほうが子どもの主体性、より自分で考えて、どうすればいいのかなという自分の気づきにつながるのかなと感じました。

大日本図書のところでは、一番最初に「好きなものを書いてみよう」というページがありまして、学校は自分の「好き」を出せるところと子どもが思ってスタートできるような、ポジティブなページだなと思いました。

また、「きもちマーク」というものもありまして、こちらも自分が今どんな気持ちなのか、自己認識力を培えるよいページになるのかなと感じました。

教育出版なのですが、こちらも自分が今どういう状態かを見るところという意味で、「ぐんぐんはしご」というものがありました。自分で考える、満足度・達成度を振り返る工夫がなされていまして、こちらも自分を顧みる機会になるのかなと思いました。

また、単元の最初に、「わくわくスイッチ」といって、自分がこの学びではこうしたいみたいなのを選ぶことができます。それによって、どんな活動したいかというところにたどり着くページがありまして、これも自分の考えをはっきりさせるために、なかなかよい取組だなと感じました。

光村図書なのですが、イラストにはすごく力を感じました。また、レイアウトも最も洗練されていると感じました。一言で言うと、格好いい教科書だなと思いました。

また、各単元ごとに、「こんなこともあるかもね」「どうしてだろう」「何でだろう」というところがありまして、これ大人にとっても、読んでいてすごく面白い着眼点の問い、気づきが書いてあるのですけれども、先生がうまくこの教科書を使えれば、子どももこんな自由な問いを持っていいのだという、自由な発想につながる試みかなと思いました。

全体を通してなのですが、どれもとてもよいと感じたのですけれども、特に東京書籍の教科書は、誘導的でない問いがあってよかったなと思いました。

また、光村図書の教科書もレイアウトがすっきりと素敵で、コメントもとても面白く、先生がうまく使えれば、子どもの自由な発想が出やすくなるのではないかと感じました。

以上です。

村杉委員

生活の授業を通じて、子どもたちが身近な人々や社会・自然と関わり、必要な習慣や技能を身につけて、生活を豊かにできるという視点から見させていただきました。

教育出版は、車椅子の子どもたちや外国籍の子どもたちのよい表情の写真が掲載されていると思いました。デジタル教材のコンテンツが豊富な点は、子どもたちにとって参考になると思います。「ぐんぐんはしご」もよいと思いました。また、東京書籍は、写真に掲載されている子どもたちの表情がいきいきとしていて、イラストや絵のバランスもよく作られていると思いました。

１年生で、通学路や公園での自然探しでは、入学して間もない子どもたちが、自然を身近に感じられるよい内容なのではないかと思います。また、おもちゃのつくり方がわかりやすく説明されている点などは、子どもたちに創造する楽しさが育まれるのではないかと思いました。

また、光村図書は写真がきれいで、量的なバランスもよく、ヨシタケシンスケさんのかわいいイラストは、子どもたちの興味を引くのではないかと思いました。車椅子や外国籍の子どもたちも掲載されており、多様性にも考慮されていました。「ひろがるせいかつじてん」で、おもちゃや生き物の飼い方、野菜づくりのこつが書かれていて、先生方からも指導しやすいとの記載がありました。また、デジタル教材も「ＮＨＫ ｆｏｒ Ｓｃｈｏｏｌ」へのリンクもあり、学習が広がっていくのではないかと思います。

このような点から、全体のバランスを考えて、私は光村図書がよろしいのではないかと思いました。

以上です。

平本委員

生活については、身近な活動や体験に、子どもたちが主体的に興味を持って進めやすいかという観点から見させていただきました。どの教科書も写真がとてもいきいきとしておりまして、興味や関心を引かれる内容になっていると思いましたが、私のほうは、特に東京書籍と光村図書に注目いたしました。

東京書籍については、写真やイラストがとてもきれいで、草花や生き物の写真も、とても

子どもたちの興味を引くような形になっており、資料もわかりやすい内容になっていると感じました。また、季節に合った教材を写真とイラストで適切に示しており、対話的な学びもイメージしやすく、教員も学習を進めやすいように思いました。また、草花や生き物の絵日記やワークシートの書き方などの例示もわかりやすく説明されていたので、低学年の子どもたちが、主体的に取り組む助けになるようには思いました。

他方で、光村図書については、やはりイラストレーターのかわいらしいイラストに目がいきました。等身大の子どもが主役のイラストになっていますので、子どもたちも自分たちの姿に大変重ねやすく、とてもわくわくする構成になっていると感じました。

また、教科書の冒頭の「せいかつ探検隊」という、その「探検隊」というワードも、低学年の子どもにとって、わくわくして入りやすいものだなと思いましたし、見開きの１ページで内容が区切られていますので、授業の進め方についての見通しが持ちやすいようにも思いました。

そのほかにも、「こんなこともあるかもね」というコーナーと「ふりかえろう」のコーナーで、学びのまとめと広がりというのもポイントを押さえて書かれていましたし、私が特によいなと思ったのは、どの単元でも、「どんな気持ちになったかな」という問いかけを常に置いておりましたので、子どもたちの気持ちの変化を大切にしている教科書だなということが伝わりました。

結論としましては、低学年での生活科は、教科書を読み込むというよりは、教科書で子どもたちの興味・関心を高めて、そこから主体的・対話的な活動を深めていくことが多いようにも思いますので、その点でも子どもたちが親しみやすくて、活用しやすい教科書になっているのは、光村図書ではないかなと思いました。

以上です。

伊藤委員

どの教科書も、本当に甲乙がつけがたく、迷うところなのですけれども、例えば大日本図書は、写真などが見やすく配置されていて、特に写真には迫力があったりするなと思いました。ただ、ちょっと全体が、レイアウトとして見づらいかなと思いましたのと、あと１年生ということを考えたときに、最初のところが細かい字で、いろいろな注意事項のようなものが書かれていて、少し１年生にとっては親しみにくいところがあるのではないかなと思いました。

また、教育出版のほうは、レイアウトも美しいのですけれども、やや情報がたくさん入っ

ていて、わかりにくいかなと思いました。反面、教育出版の場合には、図鑑的な資料として、植物や種とか、理科的な図鑑で使えるような写真がわかりやすく配置されているというところは評価できて、子どもたちの理科的な興味を喚起できるものが含まれているなと思いました。ただ、そういう意味でも、情報が多いので、１年生ということを考えるとどうかなということを感じました。

そういう点で、東京書籍と光村は、情報量としてもちょうどいいような具合になっているかなと思いました。

東京書籍のほうは、図鑑的な写真もわかりやすく、「何が見つかるかな」とか問いかけも、子どもたちにわかりやすい、また見やすい配置になっていると思いました。

ただ、今回、光村図書の教科書を拝見しますと、レイアウトが大変優れていて、特に１年生の一番最初のところで、わくわくするような、子どもたちが文字ということにまだ親しみにくくて、読めなくても、わくわくと学習に参加できたり、１年生になったという喜びの中で、校内探検などが自然にできるような、導入のところが非常にすばらしいなと思いました。

先ほどもお話にあったのですが、「どんな気持ちになったかな」ということで問いも統一されているので、このことの評価としましては、どんな気持ちになったかという振り返りがとても大事なので、よいと思う反面、本来生活科なので、社会科的な興味や理科的な興味につなげるということを考えますと、もう少し問いかけにバリエーションがあってもよいかなとは思いました。とはいえ、デジタルコンテンツなどに容易に飛べたり、シンプルなつくりになっているので、先生方の問いかけや「どんな気持ちになったかな」というところから、生活者あるいは主体者としての自分ということを認識できる点でいいと思いましたし、ヨシタケシンスケさんの漫画のところで、いろんな気持ちが表現されているので、そういう意味では、理科・社会だけでなくて、自分の気持ち、ほかの人の気持ちに気がついて、人と関わりながら生活していくというところを学べるという意味で、とてもよいのではないかなと思いました。

そのように思いましたので、全体としては、私は光村図書がよいかなと感じました。

以上です。

入野教育長

最後に、私の意見を申し上げます。どの出版社も主張が違っていて、それぞれの主張に合わせた構成になっているかなという感じがしました。それぞれの出版社が捉えている生活

科の授業ということで、特徴が出ているような気がしています。

大日本図書は、学校生活に関わるもので、教材がすごく多いですし、地域に関わるという活動が非常に多いのは、やっぱり東京書籍や光村図書でしたし、光村図書と学校図書では、圧倒的に光村図書が多いのですけれど、栽培植物の種類が多くて、そして飼育動物の種類が多いのは、やっぱり光村図書とか学校図書とか東京書籍だということ。生活科は、気づきを非常に大事にする教科です。子どもたちの気づきをどう教師が大切に拾い上げられるか、気づきをさらに深められるかというのが、生活科の授業の勝負ですので、そういう意味では、気づきということを大事にしているというのは啓林館です。先生方には、気づきの例がたくさん入っていますので、扱いやすいのかなと思うのは啓林館ですとか教育出版とか大日本図書だったかなと思います。

東京書籍は、見ていいなと思ったのは、障害者理解に関する扱いが非常に突出しているかなという感じがします。インクルーシブ遊具ですとかピクトグラム、写真とか表示とかが入っていていいかなという感じがしています。

教科書自体は、生活科は資料とか図鑑のような感じで使うことのほうが多いのが、授業の展開だと思いますので、そういう面では、どこもいいかなと思ったのですが、私は東京書籍の地域に関わる活動が多いという部分と、あと光村図書の植物だとか動物の種類をたくさん挙げているというのは非常にいいと思うのですね。中野はほとんどがアサガオを育てていますし、育てている野菜も、ほとんど、どの学校も同じになっているようです。飼育動物も限られたものしかしておりませんので、果たして光村図書が書いているものが、地域性に合っているかどうかという疑問は、若干あることはあるのですけれど、たくさんのものから、アサガオ以外も選べるということは非常に大事なことです。子どもたちの思いが広げられるということも大事だと思うので、最終的には、東京書籍か光村図書かなと思うのです。ここがまた二つがかなり違いまして、光村図書はどちらかというと子どもたちの成長にそっている感じがするので、それが色濃く出てきているという感じですかね。幼児期の体験と同じような体験をしながら、気づきとして子どもたちの中に定着させていったり、ほかの友達と共有したりという活動の持っていき方にウエートを置いているような気がしますし、東京書籍は、それも大事にしつつ、さらにその次の成長へのつながりのほうを色濃く意識しているかなというのを感じられる教科展開になっているような気がするので、先生たちからすると、実は東京書籍が扱いやすいのではないかなという気が、私は若干しております。

どちらかといったら、東京書籍かなという気がしておりますが、東京書籍と光村図書は、いずれにしても、いいかなという感じはしております。

以上です。

ほかに、各委員から発言はございますか。よろしいでしょうか。

会議を休憩いたします。

午後７時13分休憩

午後７時14分再開

入野教育長

会議を再開いたします。

全体的には、東京書籍と光村図書が挙がっていまして、どちらかというと、光村図書というご意見が強いようですが、生活については、光村図書でよろしいでしょうか。

それでは、ここでお諮りをいたします。

ただいまの協議の結果、生活については、光村図書を採択候補とすることでご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

入野教育長

ご異議ございませんので、生活については、光村図書を採択候補とすることに決定いたしました。

次に、算数について協議を行います。

各委員から順にご意見を伺いたいと思います。

まず村杉委員、お願いします。

村杉委員

子どもたちが教科書を通じて、数の概念の楽しさに気づき、学んだことを実際の生活に役立てられることなどについて、見させていただきました。

算数は６社ありましたが、その中での４社について述べさせていただこうと思います。

大日本図書は、巻頭の話し合いの仕方の例など、記載がわかりやすいと思いました。デジタルコンテンツでも、ＱＲコードで、前の学年までの学習の確認ができるということは、復習になってよいと思います。

また、教育出版は、１年生の絵や写真をもとに、問題にされているところはわかりやすいと思いました。また、初めに、見方・考え方が整理されている点でも、子どもたちにとって

わかりやすいと思います。図やグラフ、イラストなども、視覚的にきれいだと感じました。

また、学校図書は、各単元の導入部分は、イラスト形式での問題提起となっており、新しい学習に対し、より身近に感じらえるようになっている点は優れていると思いました。また、活動や思考の補助になるようなデジタルコンテンツを用意し、タブレット端末などで活用できるようにしている点も、子どもたちが使用しやすいのではないかと思います。

東京書籍は、複数の考え方が出てくる問題の多いところがよい点だと思います。表紙がきれいで、算数の世界が広がっていくような印象を受けました。デジタルコンテンツも、動画コンテンツの中で、オープニングムービーの工夫や、繰り返し確認したい計算の仕方なども優れていたと思いました。問題の解法の過程や、詳細な説明が記載されていたと思います。また、ページ当たりの文章のバランスもよく、余白の量も適当だと思いました。思考力などの育成について、「それなら次は？」が新設されており、自立的に学びを深める力を育むことができるようになっている点でも優れていると思います。

以上、主体的に学ばせるという点において、私は東京書籍が優れていると思いました。

以上です。

平本委員

算数については、数学的な考え方や思考を主体的に、対話的に学ぶ工夫がなされているかという観点を重視させていただきました。６社ありまして、全体的に見たときに少し気になったのが、学校図書や啓林館、日本文教出版など、比較的ヒントをはっきりわかりやすく書いてしまっている題材が多く感じられたことと、すぐに答えを示してしまっている部分があるなという点です。

これらは、子どもたちが自己学習を自分で進める上では、非常に助けるものになるとは思いましたが、主体的で対話的な学びを進めていくという観点で、少し気になるなと思います。

６社ある中でも、私は東京書籍に注目させていただきました。東京書籍は、構成やデザイン、文字などのバランスが、見たときに非常に入ってきやすい、見やすいということと、数学的な考え方のバリエーションを丁寧に示している点がよかったと思います。また、ヒントや答えをすぐに書き示してしまうスタイルではなかったので、子どもたちから主体的に疑問を引き出したり、教室内で対話的にヒントを出し合いながら、授業を進められるのではないかなと思いました。

また、学年別の流れを見たときに、１年生が大きな教科書になっていて、スタートを大切

にしているということと、逆に言うと、６年生の最後の部分では、「算数卒業旅行」のコーナーというのがありまして、算数でいろんな世界を旅行してみようという、とてもわくわくするような呼びかけのもとで、「中学校体験入学コース」だったり、「国際コース」であったり、「和算コース」「クイズ・パズルコース」など、最後に小学校から中学校へのつなぎの部分でも、子どもたちの興味やわくわくを大切にして、次に進めさせるというような工夫も感じられましたので、よって私は東京書籍が、全体的なバランスからもよいのではないかなと思いました。

伊藤委員

算数は数も多くて、迷う部分もあるのですけれども、私としましては、啓林館と大日本図書と東京書籍に注目しました。

啓林館は、コンパクトにまとまっているというか、何がポイントかということが、比較的わかりやすく、子どもが、自分が今何をしているのか、どう授業が流れていくのかというのを、比較的つかみやすいのではないかなと思いました。

また、大日本図書は、工夫がいろいろありまして、切って使えるようなものが入っていたりとか、あと、図などがいろいろ工夫されていたりとか、理解を助けるような工夫というのがたくさんされているなと思いました。

ただ、やはり比較しますと、東京書籍のほうは、数学的な考え方というのでしょうか。いろいろな道筋で考えることができ、一つの論理的な展開が、いろんな角度から導き出されるというような数学の面白さのようなところに、うまく無理なくつなげていくような工夫がなされていると感じましたし、繰り下がり、繰り上がりなどについても工夫がされていて、実際に量を見ながら、ただの数字ではなくて、例えばタブレット端末が 10 個ある。コインのようなものが 10 個あるとか、直感的にも理解ができるし、それを数学的にも捉えられるというような、多方面から理解できるような工夫があるということと、教科書に一つ一つ名前がついているのですけれど、「みつけよう！さんすう」から始まって、考えたことが面白い、つながっていって、そして最後６年生では、「数学へジャンプ！」というタイトルがついているのですが、まさにそういう形で、数学の面白さということが理解できるのではないかなと思いました。児童の意見のところでも、いろいろな解法が載っているものがいいという意見がございましたので、そういった意味で、東京書籍がよろしいのではないかなと思いました。

以上です。

岡本委員

東京書籍、大日本図書、啓林館、日本文教出版は別冊のスタートブックがありまして、スタートカリキュラムを意識されているのがよいと思いました。私は、特に東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版について意見を述べます。

東京書籍の教科書は、レイアウトが、ほかの委員もおっしゃるように、すっきりとして読みやすいと感じました。１ページ当たりの分量も適切で、先生や子どもにとっても、過度な負担がないのではと感じます。また、巻頭に「学びのとびら」が記載されていて、学び方が整理されているのもよいと思いました。写真も多くて、児童にとってより身近なものと、算数をつなげて考えることができると思いました。

大日本図書は、単元の初めに、例えば平均のところで、「ならす」ってどういうことかな。「ならす」という言葉の意味がすごく丁寧に書かれていて、これも子どもが自分の日常に引きつけて考えられると感じました。また、５年生からは、「中学校の数学ではこんなことを学ぶよ」と、発展的なページを取り上げていて、中学校の数学に対して不安を抱えているような子どもでも、少しでも中１ギャップの解消によい影響があるのではと感じました。他方で、少し分量が多めで、子どもにとって負担が大きくなるのではないかなということは心配でした。

学校図書のほうは、考え方モンスターというキャラクターが登場します。算数の考え方の視点が整理されているのですけれども、子どもにとってはなじみやすいのかなと思いつつ、学習にどこまでこれが有効に機能するのかというは、ちょっと私には判断がつきませんでした。導入は漫画形式になっているので、児童にとってなじみやすいところはあると思います。またこちらも、中学校との接続を意識した別冊がありまして、中１ギャップの解消には役立つのかなと思いました。

教育出版は、問題づくりを大切にしていると感じました。何のために、なぜこれを学ぶのか。算数が苦手な子が、まず最初につまずいてしまうところだと思うのですけれども、そのあたりが理解できるように配慮されていると感じました。また、導入のところでは、共同作業をする場面もありまして、１人で苦手意識を抱え込まずに済むように配慮されていると感じました。

全体を通して、東京書籍の教科書が、基礎問題が充実していること、またレイアウトが見やすいこと、あとは分量が適切であると考えます。よって、東京書籍の教科書が適していると思います。

以上です。

入野教育長

それでは、私のほうから。子どもたちの意見では、算数に関する意見がたくさん出ていたような気がいたします。練習問題が多いほうがいい。いや、少ないほうがいい。応用問題があるといい。文章題がたくさんあるといいとか、その学年でやったことがまとめてあるとわかりやすいとか書かれていると思うのですけれど、そういう子どもたちの意見を生かしながら見ていくと、単元内の学習問題が多いのが大日本図書と学校図書だと思います。文章題などの問題場面が想像できて、要するに、問題場面が想像できるということが、まず算数には大事ですし、その想像できたことを算数の式にどうあらわしていけるかということが、次の力になると思いますので、そういう指導を丁寧に扱っているのは、日本文教出版の、特に１年生の３枚のイラストから場面を想像していくというか、捉えていくというような活動が、非常に丁寧かなと思いました。

教育出版では、１年生が初めは文章ではなくて、絵や写真をもとに問題を捉えて、算数に入ってくと、計算に入っていくというような、そういう捉えをしているところもいいかなと思いました。

主体的な学びの力ということでは、巻末に前の学年までの既習が整理されている啓林館もいいのかなと思いましたし、習熟に応じた問題が、巻末に練習問題の数が多い日本文教出版もいいのかなと思いましたし、東京書籍のＱＲコードは、補充問題が答えだけでなく、ほかの委員もおっしゃっていましたように、解説があって、家庭学習がしやすい。復習も予習もしやすい。教科書自体も、コメントが小さく書かれていますので、自分で復習も予習も非常にしやすいという感じを受けました。

学校図書も同じように、巻末の補充問題とか、発展的な学びですとか、学習したことの要点などもまとめられていて、家庭学習に適しているかなという思いも持ちました。

学び合いとか対話的な学習については、どの教科書会社もかなりウエートを今回、置いてきているかなと思いましたし、東京書籍で言えば「問題をつかもう」「自分の考えをかき表そう」「友達と学ぼう」「振り返ってまとめよう」というような学習の段階を、言い方は違うのですけれど、学び合いという言葉が、「友達と学ぼう」とかいうところの部分で、必ずどこの社も重視しているという感じを受けました。

最終的には、一人１台のタブレット端末の活用ということと、これからのデジタル化ということを考えていくと、やっぱり東京書籍が、ＱＲコードの中を見ていますと、可能性が

広がるかなというような、補充問題の充実も含めて感じましたので、私としては東京書籍がいいのではないかなという思いを持ったところでございます。

ほかに、各委員から発言はございますでしょうか。

それでは、各委員とも東京書籍というご意見でしたので、算数については、東京書籍でよろしいでしょうか。

それでは、ここでお諮りをいたします。

ただいまの協議の結果、算数については、東京書籍を採択候補とすることでご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

入野教育長

ご異議ございませんので、算数については、東京書籍を採択候補とすることに決定いたしました。

休憩します。

午後７時30分休憩

午後７時30分再開

入野教育長

それでは、会議を再開いたします。

次に、保健について協議を行いたいと思います。

各委員から順にご意見を伺いたいと思います。

まず平本委員、お願いいたします。

平本委員

保健については、どうして保健を学ぶのかという健康問題の捉え方や、生活とのつながりがわかりやすいものがよいのではないかと考えて読ませていただきました。どの教科書もバランスよくいろいろと書かれておりまして、特に今回、子どもたちの不安や悩みに関する説明が、比較的丁寧に書かれておりまして、相談先も掲載するなど、子どもたちの多様な面に対する細やかな配慮が感じられて、とても悩みました。

その中で、まず東京書籍については、特に性と自分らしさということで、好きになる性を固定的に抱かないようにする工夫がありまして、動画のほうも、子どもたちが見たときに、とてもわかりやすい内容になっていたかなと思います。また飲酒や喫煙、薬物などについても、健康にどのような害があるのかという一貫した問いかけのもとで、子どもたちにき

ちっと理解させるというような工夫があったかなとは思います。

また文教社については、データや掲載資料などが正確でわかりやすいなとは思ったのですけれども、私としましては、性的指向に関する単元のところで、異性に興味を持つのが自然であると読めてしまうまとめ方になってしまっていましたので、子どもたちの心の発達や、多様性に対する配慮がもう少しあるとよいかなと思いました。

その中で、光文書院は、健康であることがどうして大切なのかを気づかせるような工夫がありまして、なぜ保健を学ぶのかをしっかりと伝えている点がよかったなと思いました。また睡眠の大切さについても、各社触れてはいるのですけれども、特にここはしっかり１ページ紙面を割いて、詳しく述べているなと思います。また心の発達や、性についての悩みについての記述も適切に描かれておりまして、ほかの人と違うような感じ方があってもよいのだよということが、子どもたちにわかりやすく伝わる内容になっているところが印象的でした。また喫煙や薬物乱用などの内容についても、どのように健康を害するかについて、しっかりと書かれておりましたので、結論としては、記述の工夫があって、全体的なバランスもよかった光文書院がよいのではないかと思っております。

伊藤委員

保健も教科書の数が多くて、様々な観点から、いろいろなことを考えさせられました。

例えば文教社は、情報が多かったり、説明が緻密というか、正確なのだろうなと思うのですけれど、その反面、例えば事故の扱いについても、交通事故が日本で多い県はどこでしょうという形になっていて、主体的に自分自身を守っていくというような保健という考え方からすると、後ほど申し上げますように、他社のように、自分の目から、危ない箇所を分析して気がついていくというような、そういう主体というところへの配慮という点で、ちょっと残念な部分があるのではないかなと思いました。

やはり保健というのは、時間数も短いのですけれども、自分や周りの人を守っていく。健康を守って、またさらに健康を高めていくという重要な役割がありますので、それを主体的に学ぶということを意識している教科書がよいのではないかなと思いました。

Ｇａｋｋｅｎも、わかりやすくまとまっていましたし、先ほどの交通事故についても、Ｇａｋｋｅｎや光文書院や大修館書店、それぞれが、事故というのは人の行動、心の状態、環境という、そういった３要因から成り立つのだというような、新たな視点を子どもたちに与えて、実際にそれを自分で分析してみるという形になっていて、とてもわかりやすく、また主体的に学べるのではないかなと思いました。ただ、やや情報が多かったり、ワークが多

かったりして、保健の時間数が短いことを考えると、コンパクトなほうがよいのかもしれないなと思いました。

そういったところでは、東京書籍と光文書院が非常にコンパクトにまとまっていてよいかなと思うのですけれども、二つとも特徴がありまして、東京書籍のほうは、学習の課題というのが明確なので、どういうふうにここで、何を学ぶのかということがわかりやすいという利点があると思いました。

ただ、やはり保健ですので、その保健というのがどういうことなのか。安全、健康って何だろうとか、あと身の回りの環境や自分の行動から、どうやって健康を守っていけるのだろうという、保健を学ぶ意味やポイントとなる事柄がコンパクトにまとまっているのは光文書院かなと思いました。また喫煙ですとか、あと薬物ですとか、そういったことについても、ポイントを絞ってわかりやすく書いてあるということがありましたので、東京書籍の主体的な学びと、このポイントを絞り込んである光文書院と非常に迷うのですけれども、どちらかといえば、コンパクトな光文書院にもよさがあるのかなと思いました。

以上です。

岡本委員

昨今、健康教育は非常に重視されています。分量の多寡あるのですが、各社力を入れていただいていると感じました。私は、中野区として、子どもの権利を大切にしているということで、特に性について注目をして中心に見ました。特に充実した記載があったのは、東京書籍と大日本図書でした。

東京書籍は、異性など、ほかの人のことが気になったり、好きになったりと、異性などの「など」があることが大切だなと思いました。また性と自分らしさ、性だけではなくて、より大きな自分らしさというところから性も見るという観点が非常に優れていると感じました。また記入できる箇所も多く用意されていましたので、１冊の中で自分の考えをまとめたり、振り返ったりできる大切な教科書になるのではないかと感じました。

大日本図書は、異性、同性というページがありまして、そこで「さまざまな性」については別のページに書かれていて、そこの別のページでは、性も人によって違う。「『好き』の形もさまざまです」と書かれていました。せっかくなら、同じページに書いてほしいなとも思いましたが、１時間の授業が、見開き２ページでまとめられているのも、非常に使いやすいのではと感じました。

ほかの教科書は、性について見ますと、例えば文教社は、異性愛が前提となっていました

し、あと大修館書店も、性が多様であるということについての記述は見られなかったり、Ｇａｋｋｅｎも、性については異性愛が前提となっているように感じました。

性について、しっかり記述してあるということ、またもちろん、ほかのページでも内容が充実していて、レイアウトもわかりやすい教科書という意味で、私は東京書籍がよいのではと考えています。

以上です。

村杉委員

子どもたちがこれからの人生を家族と健康に過ごしていけるような教育、区民の方からも、きちんと性教育を学ばせてほしいというご意見がありましたが、私は性教育、がん教育などの健康教育に視点を置いて見させていただきました。

文教社は、性差の扱いのイラストの部分が非常に丁寧で正確で詳しく、ジェンダーにも配慮されて、すばらしいと思いました。

ただ、全体的なバランスとして、東京書籍は、性差の扱いがイラスト・写真など、大変わかりやすく説明されていました。立場の違うキャラクターを使用して、個人や個性を尊重しやすい構成は大変優れていると思いました。また、がん教育に関しては「がんを知ろう」が興味深い内容で示されていました。けがの防止に関するシミュレーションを通した記述式の学びも優れていると思います。

光文書院は、性差の扱いがイラストで丁寧に示されており、しっかりと記述され、子どもたちにとって、大変わかりやすいと思います。また月経の仕組みや、女性・男性の体のつくりなども詳しく説明されていました。また、がん教育に関しては、大腸がんを取り上げ、「がん」のことを知ろうという記述がわかりやすく掲載されていました。また、がん検診の記載もありました。たばこの害について、喫煙者・非喫煙者の肺の写真を鮮明に載せている点でも、大変わかりやすく説明されていました。

このような点から、光文書院が優れているのではないかと思いました。

以上です。

入野教育長

最後に、私から意見を申し上げます。委員から様々なご意見が出ていますので、私は違った角度からお話をすると、それぞれにこれもまたウエートの置き方が若干違うのかなと思うのが、保健の教科書のような気がいたしました。

健康な生活というところを取り上げる、ウエートが置いてあるのが東京書籍とＧａｋｋ

ｅｎだと思いますし、けがの防止というところが他社よりも大きいなと思ったのが文教社。そして病気の予防ということでも、文教社やＧａｋｋｅｎが非常に多く取り上げているかなと思いました。さらに危険の予測や回避の方法ということでは、大日本図書や東京書籍がウエートをより置いていると思いましたし、病気の予防に関する解決策ということにおいては、大日本図書、大修館書店が比較的多いかなと思います。

運動と健康の関わりについては、光文書院がウエートをより置いているかなというような気もしましたので、それぞれ特徴があって、授業時間の少ない保健としては、どういうところにウエートがあるといいのかという感じを持ちながら見させていただいたところです。先ほど多様性ということ、性の多様性というお話もそれぞれ出ていたと思いますけれど、これも障害に対する理解という点から見ると、よく掲載されているのが、東京書籍かと思いますので、私としては東京書籍、それから先ほど他の委員からお話もありました、幼児期からの性教育ということに、区民の方もかなり関心があるということを聞いておりますので、村杉委員からご意見がございましたように、光文書院もいいのかと思っております。その２社がいいのかと思っているところでございます。

ほかに、各委員から発言はありますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、会議を休憩いたします。

午後７時44分休憩

午後７時44分再開

入野教育長

それでは、再開いたします。

保健については、光文書院と東京書籍という複数の候補が出ましたけれども、全体的には光文書院のほうのご意見が強いようですので、保健については光文書院でよろしいでしょうか。

それでは、ここでお諮りをいたします。

ただいまの協議の結果、保健については、光文書院を採択候補とすることでご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

入野教育長

ご異議ございませんので、保健については、光文書院を採択候補とすることに決定いたしました。

本日の協議は、これまでにしたいと思います。

次回は、７月 28 日に理科から協議を行います。

以上で、本日の日程は全て終了いたしました

これをもちまして、教育委員会第７回臨時会を閉じます。ありがとうございました。

午後７時 46 分閉会